

# ねりま沖縄映画祭2022

## オキナワ サントス

ドキュメンタリー 2020年 90分 カラー 監督:松林要樹

その名簿の6割は沖縄出身者だった。1943年、ブラジルの港町サントスから強制退去させられた日系移民の名簿を、本作の松林監督は発見した。24時間以内の退去命令が下され、家財や土地を残したまま、ある者は収容所へ送られ、ある者は家族と生き別れた。長らくタブーとされてきた事件を、当時子どもでも

松林要樹さん  
（『オキナワ サントス』監督）



11月19日(土)

13:00

## 石川文洋を旅する

ドキュメンタリー 2014年 109分 カラー 監督:大宮浩一

「4歳の時に沖縄を離れ、それからずっと本土に住んでいるが、うちなーんちゅとしての心を失ったことは一度もない」。沖縄、ベトナム、そして沖縄ー。石川文洋が1965年26歳で従軍取材をはじめてから50年の節目の年となる2014年、75になった石川がベトナムと沖縄を旅し、その生立ちと青春とを見つめる。

石川文洋さん  
(報道写真家)



16:00

提供=石川文洋

チケットは事前にご購入もしくはご予約ください

### ★チケット購入

大人 **1,000円** 当日券 **1,200円**  
18歳以下・  
ハンディのある方 **800円** 3枚綴り  
チケット **2,700円**

### 前売券のお求めの方法

#### ① Peatixからご購入

<https://nerimaokinawaeigasai2022.peatix.com>

#### ②メール・FAX・Facebook・電話でご予約いただけます。

ご予約いただいた場合は、当日会場の受付で代金と引き換えで前売券をお渡します。

いずれの方法でも、○お名前 ○ご覧になる作品 ○枚数 ○連絡先

○18歳以下、ハンディのある方はその旨を必ずご記載ください。

①メール nerimaeigasai@yahoo.co.jp



②FAX 050-6877-5315

③Facebook <https://www.facebook.com/nerimaokinawaeigasai>

④電話・ショートメール 090-8311-6678(柏木)

★当日券は、定員に余裕がある場合のみ販売します。

ご参加に際してのお願い

●発熱がある場合、体調が悪い場合はご来場をご遠慮ください。●入場の際の検温、手指消毒にご協力ください。

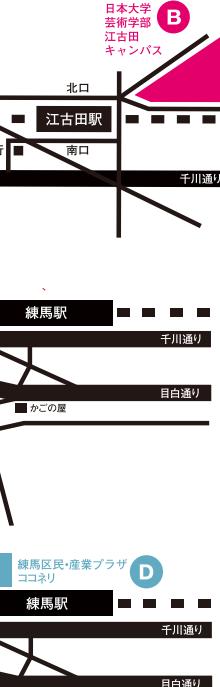
●会場内では必ずマスクの着用をお願いいたします。●ロビーでの対面での会話や飲食はなるべくお控えください。

●受付でお渡しする参加者カードに氏名、電話番号等の連絡先記入のご協力をお願いします。

●開場は各上映の15分前です。

●やむを得ない事情によりゲストが変更・中止になる場合があります。

ねりま沖縄映画祭実行委員会



# 第7回ねりま沖縄映画祭2022

Schedule

11月3日(木・休) 武蔵大学江古田キャンパス1号館1002教室 MAP A

復帰50年 沖縄の声を聞く ナビゲーター 永田浩三さん

11:00 沖縄を返せ

13:30 水どう宝 トークゲスト 松本早織さん 諸永裕司さん

16:00 遺骨 ~声なき声を聞くガマブヤ~ トークゲスト 松本早織さん

11月5日(土) 練馬区役所 多目的会議室 MAP C

よみがえる映像 ナビゲーター 真喜屋力さん

15:30 吉屋チルー物語 -日本語字幕版-

18:30 デジタルで甦る8ミリの沖縄

11月6日(日) Coconeri 3階 練馬区民・産業プラザ研修室1 MAP D

国境の島に生きる トークゲスト 東盛あいかさん

18:30 ばちらぬん

19:40 ヨナグニ ~旅立ちの島~

11月10日(木) 日本大学芸術学部江古田キャンパス東棟地下1階EB 2教室 MAP B

ナビゲーター 古賀太さん

18:00 パイナップル・ツアーズデジタルリマスター版  
トークゲスト 代島治彦さん

11月19日(土) 練馬区役所 地下多目的会議室 MAP C

13:00 オキナワ サントス トークゲスト 松林要樹監督

16:00 石川文洋を旅する トークゲスト 石川文洋さん



## わにいの沖縄



1作品ごとにチケットが必要です

## 復帰50年 沖縄の声を聞く



ナビゲーター 永田浩三さん(武蔵大学社会学部教授)

11月3日(木・休)

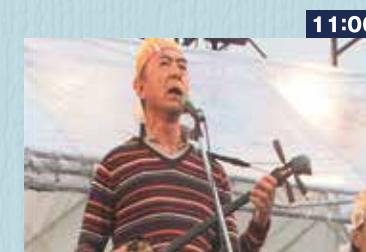
## 沖縄を返せ

ドキュメンタリー 2012年 48分 カラー 制作:沖縄テレビ放送

復帰50年の今年、沖縄テレビが10年前の復帰40年のタイミングで放送したニュース企画「沖縄を知る」というシリーズを再構築してまとめあげたドキュメンタリーパン組。

日本への復帰を目指す沖縄で、人々の思いをひとつに束ねる強い力をもち、熱狂的に歌われた歌「沖縄

を返せ」。50年前、その歌と共に、悲願の本土復帰を果たした沖縄。しかし、それは望んでいた「復帰」ではなく、復帰後の沖縄では、あれほど人々から愛された「沖縄を返せ」は、急に歌われなくなってしまった。その伝説の歌の背景を探っていくと、日本と沖縄の複雑な関係と「復帰」の真の姿が見えてくる。



11:00

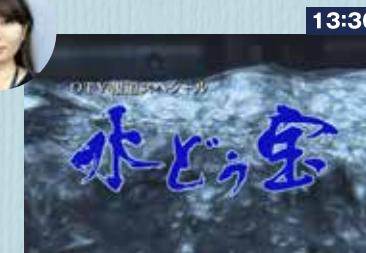
©沖縄テレビ放送

## 水どう宝

諸永裕司さん  
(『消された水汚染』著者)松本早織さん  
(沖縄テレビディレクター)

ドキュメンタリー 2022年 48分 カラー 制作:沖縄テレビ放送

島国の沖縄では、人々の命を支える“水は宝・水どう宝”。  
「水どう宝」は、アメリカ軍基地周辺で確認されている有機フッ素化合物・PFASによる水汚染から子どもを守るために行動を起す人々を追ったドキュメンタ



13:30

©沖縄テレビ放送

## 遺骨～声なき声をきくガマフヤー～ 松本早織さん

(沖縄テレビディレクター)

ドキュメンタリー 2021年 48分 カラー 制作:沖縄テレビ放送

遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松代表は39年間の遺骨収集で、遺骨の声なき声を聞き、遺族に寄り添ってきた。「高齢化した遺族には時間がなく、人道上の問題」「過去を見つめることで、戦争のない未来を考えよう」と具志堅さんは訴える。第59回ギャラクシー賞テレビ部門選奨を受賞。



16:00

©沖縄テレビ放送

ナビゲーター

古賀太さん

代島治彦さん  
(『パイナップル・ツアーズ』プロデューサー)

## パイナップル・ツアーズ～デジタルリマスター版～

劇映画 2022年 118分 カラー 監督:當間早志、中江裕司、真喜屋力

沖縄ブームの火付け役となった『島唄』や『ちゅらさん』に先駆けて1992年に劇場公開され、あたらしい時代のオキナワ映画として話題を呼んだ『パイナップル・ツアーズ』がデジタルリマスター版として30年振りに復活した。当時20代の個性豊かな3人の監督たちによる、架空の島・具(ぐ)良(ら)間(ま)島(しま)を舞



18:00

©スコブル工房

11月10日(木)

## よみがえる映像



ナビゲーター 真喜屋力さん(沖縄アーカイブ研究所)

11月5日(土)

## 吉屋チルー物語～日本語字幕版～

劇映画 1962年 98分 モノクロ 監督:金城哲夫

円谷プロダクションで、ウルトラマンの生みの親として知られた金城哲夫の最初の映像作品。自ら製作・脚本・監督を兼ねた。大学を卒業して間もない頃、金城は一時帰郷し、沖縄でこの幻の作品を自主制作した。金城が選んだのは沖縄芝居の演目として親しまれてきた時代劇。17世紀の琉球王朝時代、8歳で那

覇仲島の遊郭『吉屋』に売られたチルー(鶴)と当時の支配階級サムラー(士族)仲里按司との悲恋物語が全編ウチナーグチ(沖縄語)で綴られる。沖縄県立博物館・美術館が日本語字幕版を制作。劇場未公開の幻の映画。



©沖縄県立博物館・美術館蔵

15:30

## デジタルで甦る8ミリの沖縄

ドキュメンタリー 2022年 90分 監督:真喜屋力

ねりま沖縄映画祭で、毎年好評を博す企画。1950年代から70年代にかけて、沖縄で暮らしていた市井の人びとの手で撮影された貴重で懐かしい8ミリ映像の数々…もしかしたら埋もれ消えてしまったかもしれない沖縄の戦後の日々、風景、家族、お祭り、さまざまな行事…二度と帰らぬあのとき、あのころ。現在進行

形で進められているデジタル化作業の中で新たに甦った映像をセレクト、真喜屋さんの解説で観る。東京ではめったに観ることのできない上映、お見逃しなく。



11月6日(日)

国境の島に生きる  
東盛あいかさん

## ばちらぬん

劇映画 2021年 61分 カラー 監督:東盛あいか

主演も務める与那国出身の東盛あいか監督が、京都芸術大学映画学科の卒業制作として、大学の仲間とともに作り上げた本作品は、「びあフィルムフェスティバル2021」のグランプリに輝くなど、与那国島の美しい映像と、字幕でしか理解できない与那国語の調べ。どこか失ってはならないものへの郷愁を漂わ

せる幻想的な作品だ。これが初監督で俳優との二刀流。那覇の桜坂劇場での1週間の上映予定が、好評につき3週間に延長される。コロナ禍による撮影の大幅な変更など、ここでしか聞けない制作秘話も当日監督から直接お聞きできる貴重な機会となる。



©ムーリングプロダクション

18:30

## ヨナグニ～旅立ちの島～

ドキュメンタリー 2021年 74分 カラー 監督:アヌシュ・ハムゼヒアン、ヴィットーリオ・モルタロッティ

文化人類学的興味から、「消滅危機言語」である、「どうなんむぬい(与那国語)」を後世に残したいという動機から始まった。イタリア人の2名の監督の3年の取材活動の結果を映像に残す試みは、与那国島での人々との出会い、とくに卒業とともに島外の高校に行くためには島を離れる宿命にある中学生へ

の強い関心から、本作品ではそうした中学生の日常にもスポットを当てることになった。「ばちらぬん」の東盛あいか監督とのインタビュー映像も当日同時上映。3人の与那国島への想いをより深く感じ取ることができる構成となっている。



©ムーリングプロダクション

19:40